専門分野

看護の統合と実践

シラバス

科目名	看護キャリア形成論	単位	1	時間数	３０	開講時期	3年次前期	担当者	副校長 看護師 ※実務経験のある教員
学習のねらい	本科目では、社会人として、専門職として働く意義を考える。そして今まで学んできた看護を別の角度から見直してみる。組織の中での看護を考えることで、今まで患者を中心に行ってきた看護の違った側面について気付くことができるかもしれない。さらに、臨床で活躍している先輩方にその過程を講義してもらう。先輩方の貴重な体験談を聞くことで、自らのキャリア形成を考えるきっかけをつくることをねらいとする。								
目的・目標	目的；仕事を通じて実現したい将来像やそれに近づくプロセスを明確にし、看護師として働く自分を想像することができる。 目標；１．社会や組織の中での“専門職”および“看護”について考えることができる。 2．認定看護師の活動内容について知ることができる。 3．ＤＭＡＴの活動内容について知り、災害看護の基本となる特徴や役割について理解することができる。 4．看護教育に関わる活動内容について知ることができる。 5．組織の中での教育プログラム開発における活動内容について知ることができ、社会や組織における役割について考えることができる。 6．将来の看護師像についてイメージし、自己のキャリア形成について考えることができる。								
授業計画	1回(45分×2)．　社会人、専門職とは　（本校３年間の社会人基礎力のまとめ） 2回(45分×2)．　看護提供のしくみ　サービスとは何か 3回(45分×2)．　看護提供のしくみ　衛生法規とは何か 4回(45分×2)．　看護提供のしくみ　保健制度とは何か 5回(45分×2)．　看護提供のしくみ　看護管理とは 6回(45分×2)．　広がる看護の活動域、国際看護 7-8回(45分×4)．　特定分野における活動：　認定看護師 9-12回(45分×8)．　特定分野における活動：　ＤＭＡＴ　・災害看護の定義、目的と災害サイクル ・災害看護の特徴とトリアージ ・災害看護の実際と他職種間連携 13回(45分×2)．　特定分野における活動：　医療安全 14回(45分×2)．　看護教育に関わる活動：　臨床指導者・現任教育 15回(45分×2)．　組織の中での教育プログラム開発活動：　看護部								
評価方法	授業参加状況（10%）と自己のキャリア形成についてのレポート（90%）を総合的に評価								
教科書 参考文献	系統看護学講座　看護学概論　医学書院 ダニエル　F.チャンプリス著　浅野裕子訳　ケアの向こう側　日本看護協会出版 Fry.ST　片田範子訳　看護実践の倫理　倫理的意思決定のためのガイド　日本看護協会出版								
履修要件									

シラバス

科目名	看護技術統合実技Ⅰ	単位	1	時間数	３０	開講時期	1年次後期	担当者	教員 ※実務経験のある教員
学習のねらい	看護技術の原理原則を理解したうえで、技術を構成する基本動作を確実に行い、それを順序化し一連の行為として実施できるようにする。								
目的・目標	目的；原理原則に基づいた看護技術を一連の行為として実施できる力を育成する。 目標； 1. 看護技術の学習方法を再認識し、自己の技術修得状況の把握と目標設定ができる。 2. 既習の学習内容を振り返り、技術習得のために自己練習することができる。 3. 意識・呼吸・脈拍・体温・血圧の５つの観察を一連の行為として実施できる。 4. 安全・安楽に車椅子への移乗の援助ができる。 5. 基本的なコミュニケーション技術を行うことができる。								
授業計画	1回(45分×2). オリエンテーション（科目の位置づけ、授業の構成、評価方法について） ・技術実践の中でのコミュニケーションについて 2回(45分×2). バイタルサイン測定技術のデモンストレーション ・基本動作の根拠の確認 ・バイタルサイン測定技術の基本動作および一連の流れに焦点を当て個人ワークおよびグループワークを行う。 3-6回(45分×8). バイタルサイン測定技術の基本動作および一連の流れに焦点を当て個人ワークおよび・グループワークを行う。 7-8回(45分×4). **バイタルサイン測定技術の実技試験** 9回(45分×2). ベッド⇒車いすへの移動技術のデモンストレーション ・基本動作の根拠の確認 10-13回(45分×8). 車いすへの移動技術の基本動作および一連の流れに焦点を当て個人ワークおよびグループワークを行う。 14回(45分×2). **車いすへの移動技術の実技試験** 15回(45分×2). 実技試験の振り返り　まとめ								
評価方法	実技試験（バイタルサイン測定と車椅子移乗　各40点）及び出席・課題提出状況20点とする。								
教科書	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院								
参考文献	基礎看護援助論での授業資料								
履修要件	解剖生理学、基礎看護学総論、基礎看護援助論ⅠⅢ								

シラバス

科目名	看護技術統合実技Ⅱ	単位	1	時間数	３０	開講時期	2年次後期	担当者	教員 ※実務経験のある教員
学習のねらい	対象の特性に合わせて、どうしたら安全・安楽に看護技術を提供できるかを考えるクリティカルシンキング能力を身に付け、実践できる能力を修得してほしい。								
目的・目標	目的；対象の特性に合わせて基本動作を組み合わせ、安全・安楽な看護技術を提供することができる。 目標； １．看護技術統合実技Ⅰを想起することができる ２．基礎看護援助論で学んだ看護技術を想起することができる ３．成人看護学演習で学んだ看護過程を想起することができる ４．対象に必要で個別性のある看護計画の立案・実施・評価ができる ５．今後の臨地実習に向けて意欲が高まる								
授業計画	１回（45分×2）．オリエンテーション　（PBL学習について、前半の課題提示） ２回（45分×2）．事例の理解（計画） ３−６回（45分×8）．シミュレーション演習　（計画・実施） ７−８回（45分×4）．シミュレーション演習（実技試験）　・リフレクション　（実施・評価） ９回（45分×2）．前半の振り返り 10-11回（45分×4）．後半の課題提示　（計画・実施） 12回（45分×2）．シミュレーション演習　（実施・評価） 13回（45分×2）．シミュレーション演習　（再実施・評価） 14-15回（45分×4）．後半の振り返り、まとめ								
評価方法	実技試験（70%）および課題の提出状況・内容（30%）により総合的に評価								
教科書	系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③ 系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　成人看護学①								
参考文献	成人看護学（成人看護学総論、援助論、演習）に関連したテキスト、授業資料 基礎看護援助論のテキストおよび各授業資料								
履修要件	解剖生理学、基礎看護学総論、基礎看護援助論、成人看護学総論、成人看護援助論、 成人看護学演習、老年看護学総論、老年看護援助論、看護技術統合実技Ⅰ、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ								

シラバス

科目名	看護技術統合実技Ⅲ	単位	1	時間数	３０	開講時期	3年次後期	担当者	教員 ※実務経験のある教員
学習のねらい	対象を包括的にアセスメントした上で、状況にあった看護技術の方法を判断し、それを伝え了承を得、安全・安楽・自立に基づいた看護実践ができる基礎的能力を身につける。また複数患者の状況をアセスメントした上で優先順位を踏まえた行動を考えることを通じて、臨床への応用及び就職時のリアリティショックの軽減につなげる。看護実践者として、学び続けていく意義と方法を学ぶ。								
目的・目標	目的；基礎技術統合実技Ⅰ～Ⅲを通して、基礎看護援助論で学んだ看護技術を統合する。 多重課題のなかで、臨床判断に基づいた優先順位の決定や看護援助の実践を体験すること通して、看護者としての基礎的実践力を身につける。 目標；１．対象の状況を包括的にアセスメントし適切な看護援助を考えることができる ２．対象の状況に応じた、安全で安楽な看護援助を実施できる ３．技術試験で実施した自己の看護援助を根拠に基づき振り返ることができる ４．事例上における複数患者の優先順位を考えた行動計画を立案できる ５．自己の看護技術に対する考えを述べることができる								
授業計画	1.その場の状況に対応した看護技術　〔　45分×14　〕 1)オリエンテーション ①事例患者の紹介　② 対象把握 2)援助技術の練習 3)援助の実践（実技評価） 4)実践の振り返り 2.複数の受け持ち患者の優先順位を踏まえた行動計画　〔　45分×6　〕 1)グループワーク 2)行動計画発表会、意見交換、優先順位の再検討 3.健康問題を抱える患者の臨床判断　〔　45分×10　〕 1)臨床判断能力とは 2)グループワーク 3)臨床判断発表会、意見交換								
評価方法	実技評価（60%）、グループワークの内容と発表（行動計画と臨床判断　各20%）を総合して評価する								
教科書	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 成人看護学　各種								
参考文献	基礎看護援助論で配布した資料　基礎技術統合実技Ⅰ・Ⅱで配布した資料 成人看護学演習で配布した資料								
履修要件	全ての臨地実習								